参 考 資 料

1　芦屋市の状況 …… 136
2　課題別計画等一覧 …… 145
3　指標一覧 …… 168
4　用語説明 …… 232

参考資料１　芦屋市の状況

（１）　市民アンケート調査結果

後期基本計画の策定にあたって，市民アンケート調査を実施しました。

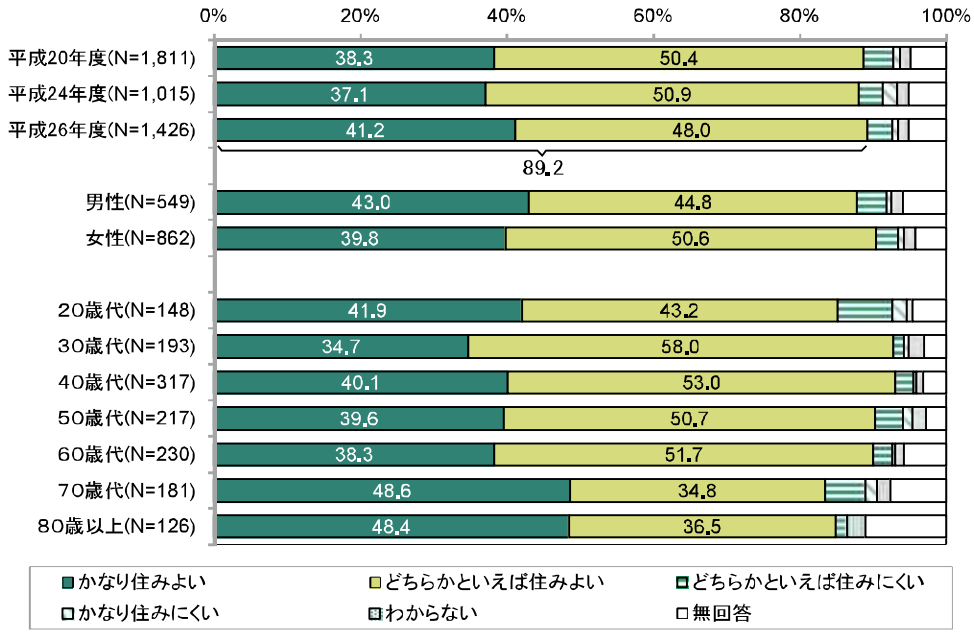
調査対象	芦屋市在住の 20 歳以上の市民 3,000 人（無作為抽出）
調査期間	平成 27 年(2015 年) 2 月 27 日～平成 27 年(2015 年) 3 月 17 日
有効回答率	47.7%

①芦屋市の住み心地

お住まいの地域の住み心地については，「かなり住みよい」が 41.2%，「どちらかといえば住みよい」が 48.0%となっています。両者を合わせると，89.2%が「住みよい」と感じています。

年代別では，「70 歳代」，「80 歳以上」の「かなり住みよい」の割合が他の年代よりやや高く，「30 歳代」の割合が他の年代よりやや低くなっています。

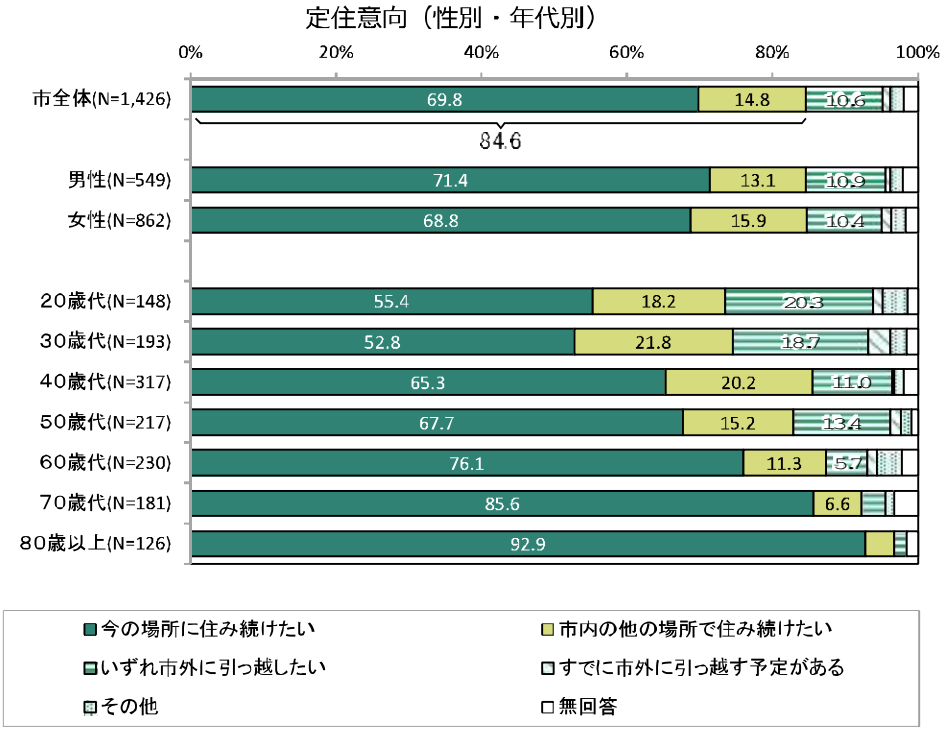
お住まいの地域の住み心地（調査時期別・性別・年代別）



②芦屋市での定住意向

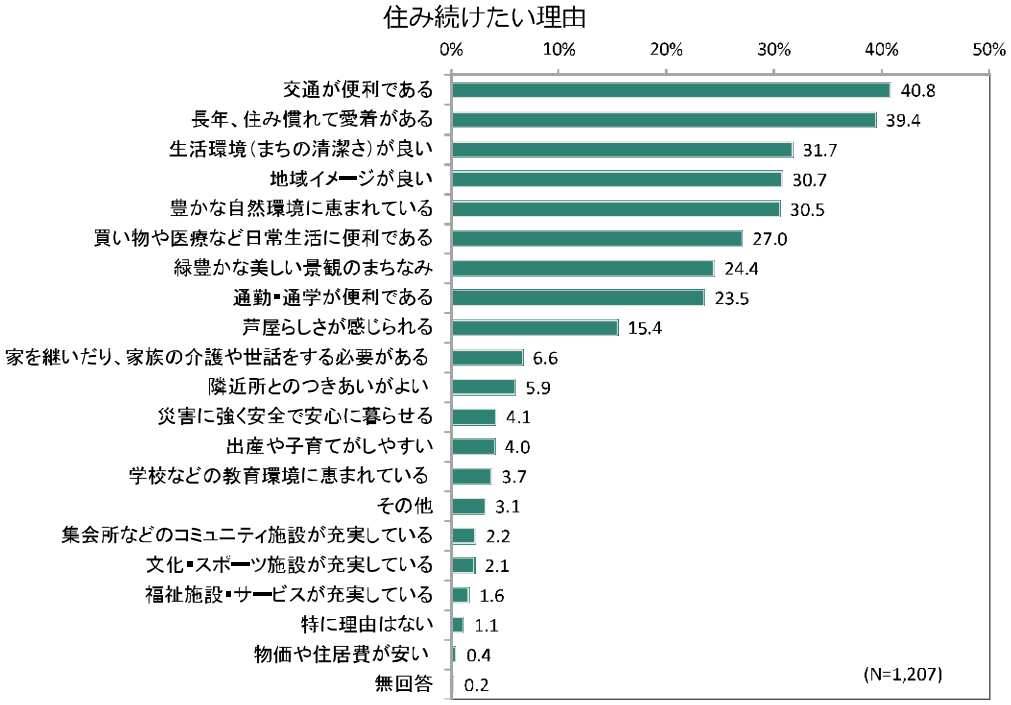
芦屋市での定住意向は「今の場所に住み続けたい」が 69.8%で最も多く，「市内の他の場所で住み続けたい」が 14.8%と続いています。両者を合わせると，84.6%が「芦屋市内で定住したい」と考えています。

年代別では，概ね年齢層が高いほど「今の場所に住み続けたい」の割合が高く，「20 歳代」，「30 歳代」では「今の場所での定住」意向は約５割にとどまり，「市内での転居」と「市外への転出」がそれぞれ約２割となっています。



③芦屋市に住み続けたい理由

芦屋市に住み続けたい理由としては，「交通が便利である」が 40.8%で最も多く，「長年，住み慣れて愛着がある」が 39.4%と続いています。（３つ以内の複数選択）

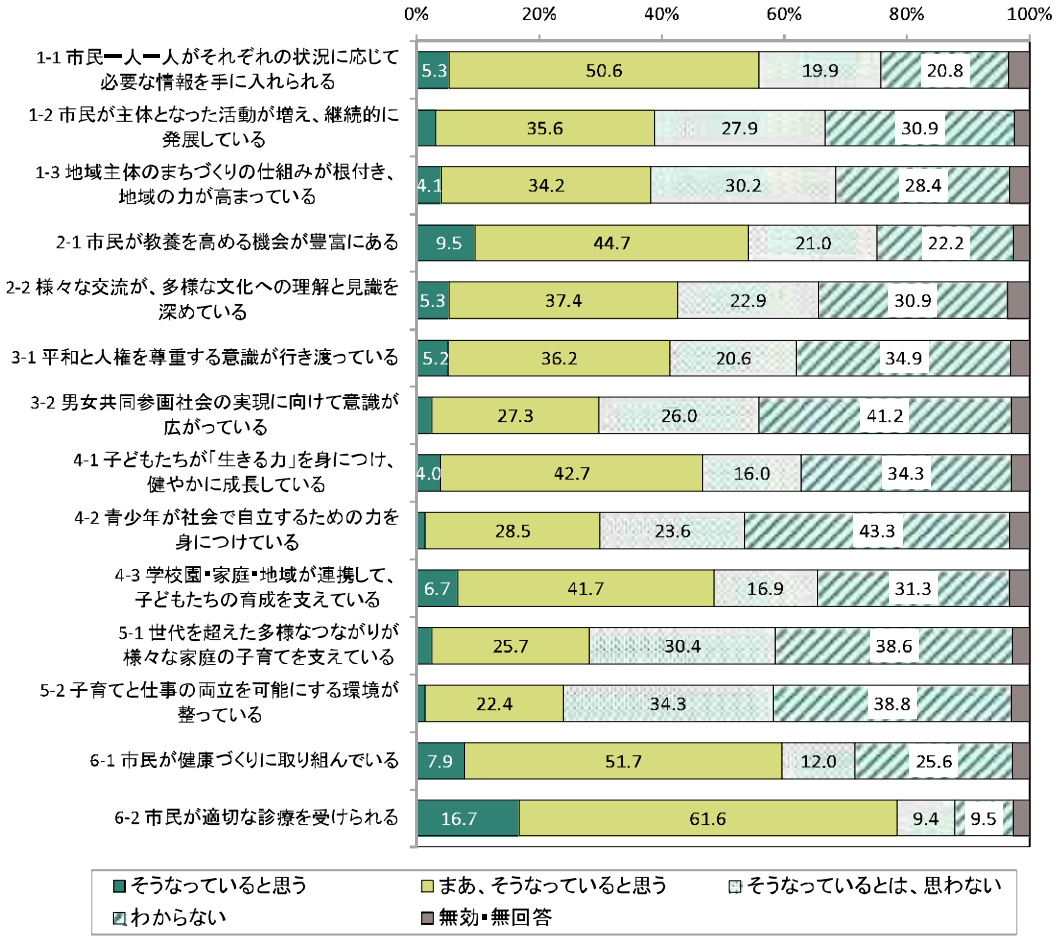


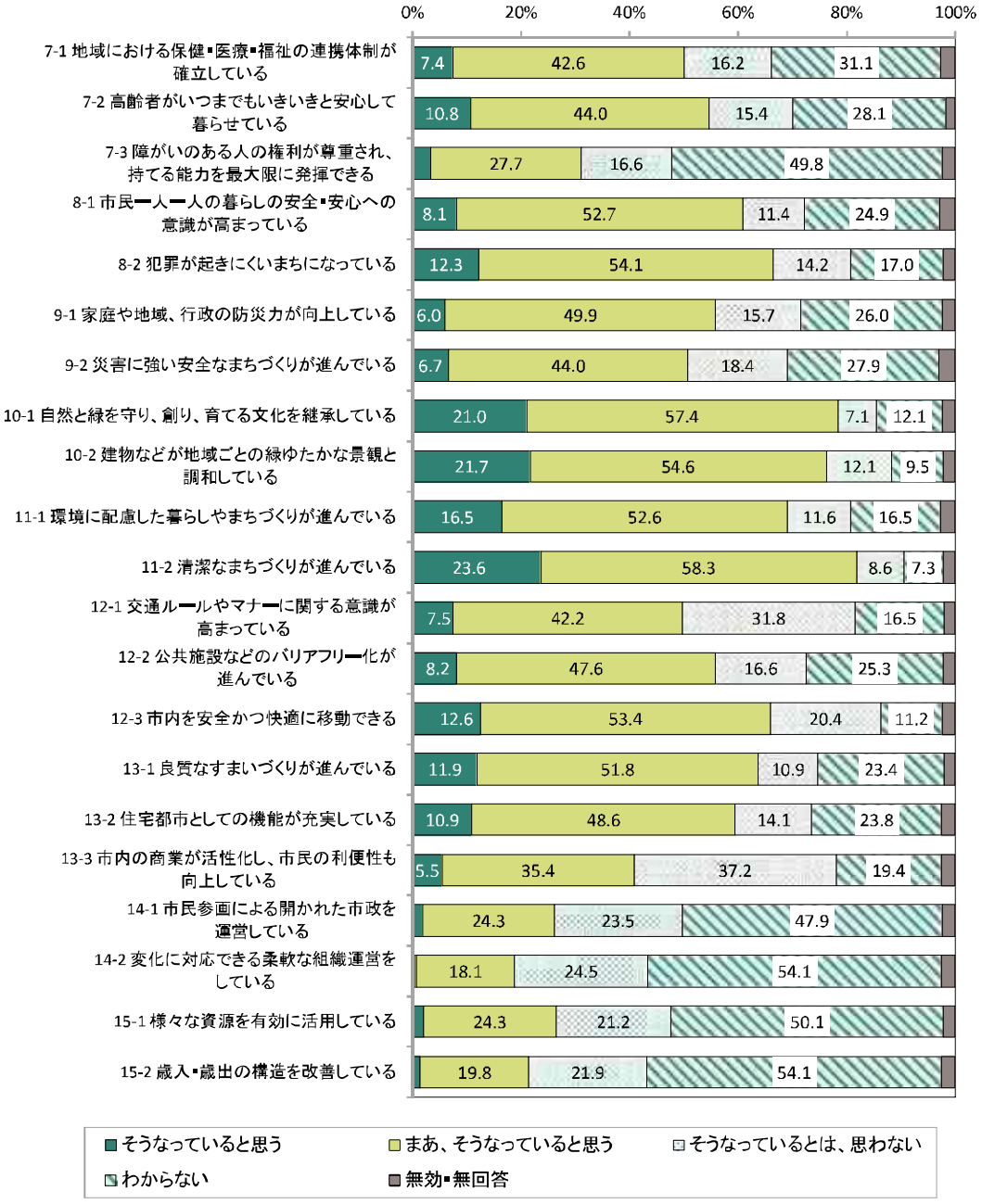
④芦屋市のまちづくりの目標の達成状況についての考え

35 の施策目標の達成状況についてたずねたところ，肯定的意見（「そうなっていると思う」と「まあ，そうなっていると思う」の合計）の割合は，「11-2 清潔なまちづくりが進んでいる」が 81.9%で最も高く，「10-1 自然と緑を守り，創り，育てる文化を継承している」が 78.4%，「6-2 市民が適切な診療を受けられる」が 78.3%と続いています。

一方，否定的意見（「そうなっているとは思わない」）の割合は，「13-3 市内の商業が活性化し，市民の利便性も向上している」が 37.2%で最も高く，「5-2 子育てと仕事の両立を可能にする環境が整っている」が 34.3%，「12-1 交通ルールやマナーに関する意識が高まっている」が 31.8%と続いています。

芦屋市の現状についての考え




0%
20%
40%
60%
80%
100%
7-1 地域における保健・医療・福祉の連携体制が確立している
7.4
42.6
16.2
31.1
7-2 高齢者がいつまでもいきいきと安心して暮らせている
10.8
44.0
15.4
28.1
7-3 障がいのある人の権利が尊重され、持てる能力を最大限に発揮できる
27.7
16.6
49.8
8-1 市民一人一人の暮らしの安全・安心への意識が高まっている
8.1
52.7
11.4
24.9
8-2 犯罪が起きにくいまちになっている
12.3
54.1
14.2
17.0
9-1 家庭や地域、行政の防災力が向上している
6.0
49.9
15.7
26.0
9-2 災害に強い安全なまちづくりが進んでいる
6.7
44.0
18.4
27.9
10-1 自然と緑を守り、創り、育てる文化を継承している
21.0
57.4
7.1
12.1
10-2 建物などが地域ごとの緑ゆたかな景観と調和している
21.7
54.6
12.1
9.5
11-1 環境に配慮した暮らしやまちづくりが進んでいる
16.5
52.6
11.6
16.5
11-2 清潔なまちづくりが進んでいる
23.6
58.3
8.6
7.3
12-1 交通ルールやマナーに関する意識が高まっている
7.5
42.2
31.8
16.5
12-2 公共施設などのバリアフリー化が進んでいる
8.2
47.6
16.6
25.3
12-3 市内を安全かつ快適に移動できる
12.6
53.4
20.4
11.2
13-1 良質なすまいづくりが進んでいる
11.9
51.8
10.9
23.4
13-2 住宅都市としての機能が充実している
10.9
48.6
14.1
23.8
13-3 市内の商業が活性化し、市民の利便性も向上している
5.5
35.4
37.2
19.4
14-1 市民参画による開かれた市政を運営している
24.3
23.5
47.9
14-2 変化に対応できる柔軟な組織運営をしている
18.1
24.5
54.1
15-1 様々な資源を有効に活用している
24.3
21.2
50.1
15-2 歳入・歳出の構造を改善している
19.8
21.9
54.1
そうなっていると思う
まあ、そうなっていると思う
そうなっているとは、思わない
わからない
無効・無回答

（２）前期基本計画の総括結果

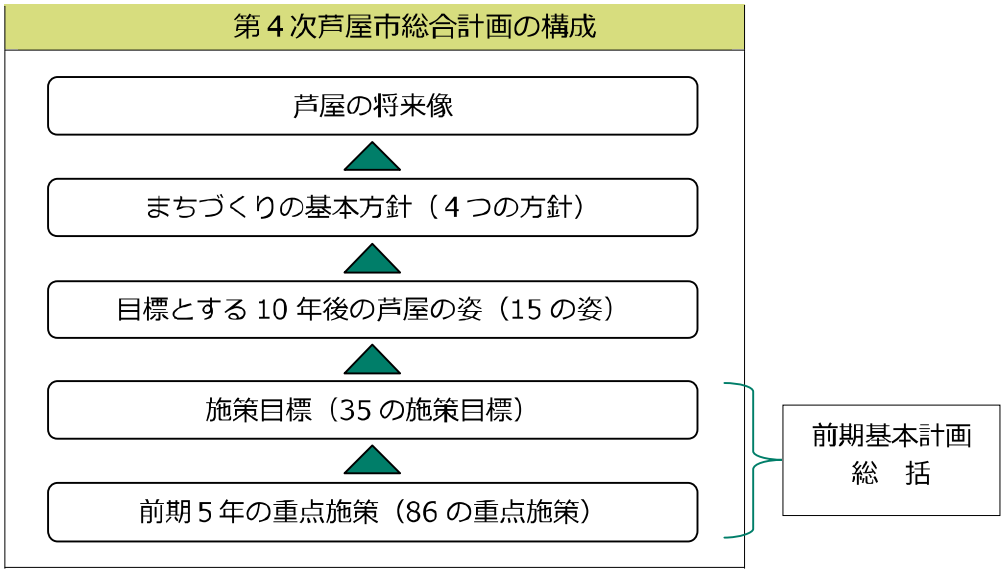
前期基本計画の計画期間が平成 27 年度(2015 年度)までとなっていることから，後期基本計画の策定に生かすことを目的に前期基本計画期間における取組の総括を行いました。

①総括の視点

前期基本計画では，35 の「施策目標」について，「前期５年の重点施策」を設定しています。

基本構想と基本計画をつなぐ「目標とする 10 年後の芦屋の姿」を達成するために，前期基本計画では重点施策を設定していることから，「前期５年の重点施策」の実施状況に注目して総括を行いました。

この総括は，行政評価における「施策評価」として行いました。



②評価の方法

「展開状況」と「結果の傾向」の２つの視点での評価をもとに，４段階（☆☆☆☆～☆）で評価し，総括コメントとして前期基本計画期間の主な取組や成果，後期に向けての課題を整理しました。

［４段階での評価］

総括結果	総括結果の☆の意味	展開状況	結果
☆☆☆☆	全ての小項目を実施しており，結果も良好である	全て実施（○）	全て良好（○）
☆☆☆	実施していない小項目があるが，結果は良好である	一部実施（△）	全て良好（○）
☆☆	小項目を全て実施しているが，悪化傾向の結果がみられる	全て実施（○）	悪化あり（△）
☆	実施していない小項目があり，悪化傾向の結果もみられる	一部実施（△）	悪化あり（△）

③総括の結果

前期基本計画における 35 の施策目標の総括結果は次のとおりです。

内訳は，☆☆☆☆が 17 施策，☆☆☆ 5 施策，☆☆が 8 施策，☆が 5 施策となっています。

評価結果の一覧

まちづくりの基本方針	目標とする10年後の芦屋の姿	施策目標	総括結果	☆4	☆3	☆2	☆1
1 人と人がつながって新しい世代につなげる	1 一人ひとりのつながりが地域の力を高め，地域主体のまちづくりが進んでいる	1-1 市民一人ひとりがそれぞれの状況に応じて必要な情報を手に入れられる	☆☆☆		○		
		1-2 市民が主体となった活動が増え，継続的に発展している	☆☆☆☆	○			
		1-3 地域主体のまちづくりの仕組みが根付き，地域の力が高まっている	☆☆☆☆	○			
	2 多様な文化・スポーツ・芸術・伝統が交流するまちで，芦屋の文化があふれている	2-1 市民が教養を高める機会が豊富にある	☆☆			○	
		2-2 様々な交流が，多様な文化への理解と見識を深めている	☆☆☆☆	○			
	3 お互いを尊重しながら理解と思いやりの心が広がっている	3-1 平和と人権を尊重する意識が行き渡っている	☆☆☆☆	○			
		3-2 男女共同参画社会の実現に向けて意識が広がっている	☆☆			○	
	4 子どもたちが社会へ羽ばたけるようたくましく育っている	4-1 子どもたちが「生きる力」を身につけ，健やかに成長している	☆☆☆		○		
		4-2 青少年が社会で自立するための力を身につけている	☆☆☆☆	○			
		4-3 学校園・家庭・地域が連携して，子どもたちの育成を支えている	☆☆☆☆	○			
	5 地域で安心して子育てができている	5-1 世代を超えた多様なつながりが様々な家庭の子育てを支えている	☆☆☆☆	○			
		5-2 子育てと仕事の両立を可能にする環境が整っている	☆☆			○	
2 人々のつながりを安全と安心につなげる	6 市民が心身の良好な状態を維持して過ごしている	6-1 市民が健康づくりに取り組んでいる	☆☆☆☆	○			
		6-2 市民が適切な診療を受けられる	☆☆☆		○		
	7 高齢者や障がいのある人がいきいきと安心して住み続けられるまちぐるみの支え合い・助け合いが進んでいる	7-1 地域における保健・医療・福祉の連携体制が確立している	☆				○
		7-2 高齢者がいつまでもいきいきと安心して暮らせている	☆				○
		7-3 障がいのある人の権利が尊重され，持てる能力を最大限に発揮できる	☆☆☆☆	○			
	8 一人ひとりの意識やまちの雰囲気が暮らしの安全を支えている	8-1 市民一人ひとりの暮らしの安全・安心への意識が高まっている	☆☆☆☆	○			
		8-2 犯罪が起きにくいまちになっている	☆☆☆☆	○			
	9 まちの防災力が向上し，災害時に的確に行動できるよう備えている	9-1 家庭や地域，行政の防災力が向上している	☆				○
		9-2 災害に強い安全なまちづくりが進んでいる	☆☆			○	
3 人々のまちを大切にする心や暮らし方をまちなみにつなげる	10 花と緑に彩られた美しいまちなみが自然と調和している	10-1 自然と緑を守り，創り，育てる文化を継承している	☆				○
		10-2 建物などが地域ごとの緑ゆたかな景観と調和している	☆☆☆		○		
	11環境にやさしい清潔なまちでの暮らしが広がっている	11-1 環境に配慮した暮らしやまちづくりが進んでいる	☆☆☆☆	○			
		11-2 清潔なまちづくりが進んでいる	☆☆☆☆	○			
	12 交通マナーと思いやりがまちに行き渡り，市内が安全に安心して移動できるようになっている	12-1 交通ルールやマナーに関する意識が高まっている	☆☆			○	
		12-2 公共施設などのバリアフリー化が進んでいる	☆☆☆☆	○			
		12-3 市内を安全かつ快適に移動できる	☆☆			○	
	13 充実した住宅都市の機能が快適な暮らしを支えている	13-1 良質なすまいづくりが進んでいる	☆☆☆☆	○			
		13-2 住宅都市としての機能が充実している	☆☆☆		○		
		13-3 市内の商業が活性化し，市民の利便性も向上している	☆☆			○	
4 人々と行政のつながりをまちづくりにつなげる	14 信頼関係の下で市政が展開している	14-1 市民参画による開かれた市政を運営している	☆				○
		14-2 変化に対応できる柔軟な組織運営をしている	☆☆			○	
	15 経営資源を有効に活用し，健全な財政状況になっている	15-1 様々な資源を有効に活用している	☆☆☆☆	○			
		15-2 歳入・歳出の構造を改善している	☆☆☆☆	○			

（３）芦屋市の人口推移と将来推計人口

①人口推移

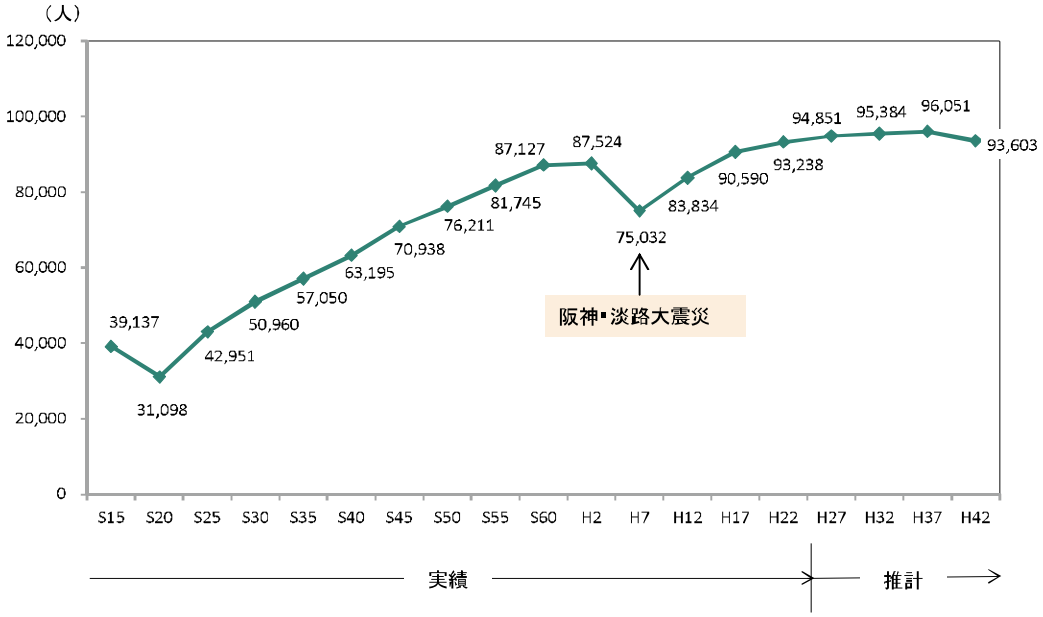
本市の人口は昭和 50 年（1975 年）には 76,211 人でしたが，昭和 53 年（1978 年）の芦屋浜への入居が開始した後の昭和 54 年（1979 年），昭和 55 年（1980 年）は人口が急増し，その後も増加を続け昭和 63 年（1988 年）には 88,623 人となりました。しかし，これをピークとして減少傾向に転じ，平成７年（1995 年）の阪神・淡路大震災の影響を受けたため，人口は 75,032 人に急減しました。その後は，平成 11 年（1999 年）までは横ばい傾向で推移しましたが，震災復興整備に伴って徐々に人口は回復し，平成 14 年（2002 年）には 87,790 人に達し，震災前の水準に戻りました。

その後も南芦屋浜地区への入居等もあり，人口の増加は続きましたが，平成 16 年（2004 年）以降は住宅用地の供給不足や景気の低迷の影響もあり，増加は緩やかとなり，平成 26 年（2014 年）には 94,642 人となっています。

②将来推計人口

平成 22 年（2010 年）の国勢調査を基準に将来人口を推計したところ，本市の人口は平成 22 年（2010 年）以降も微増を続けますが，平成 37 年（2025 年）の 96,051 人をピークにその後は減少すると見込まれます。

芦屋市の人口推移と将来推計人口

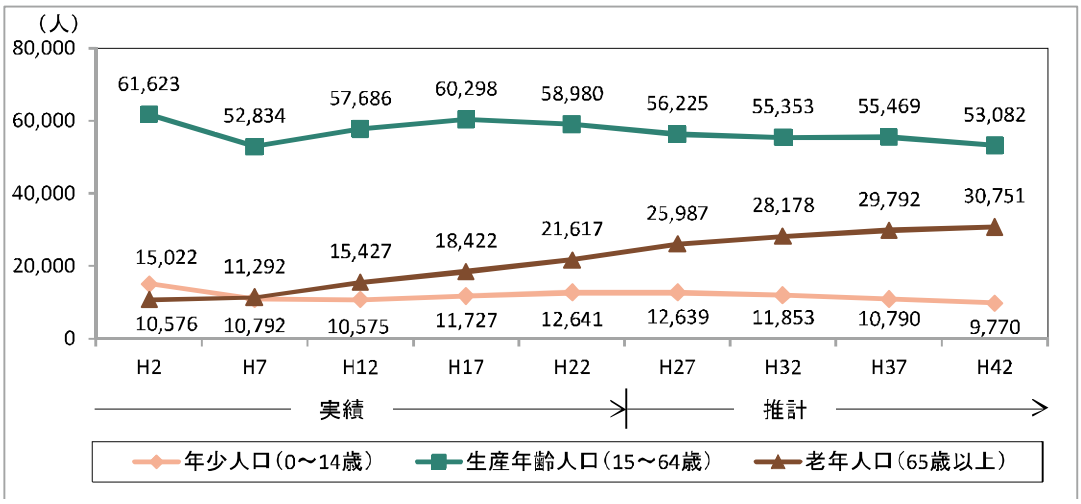


（資料）芦屋市「芦屋市将来人口推計報告書」（平成 27 年３月）

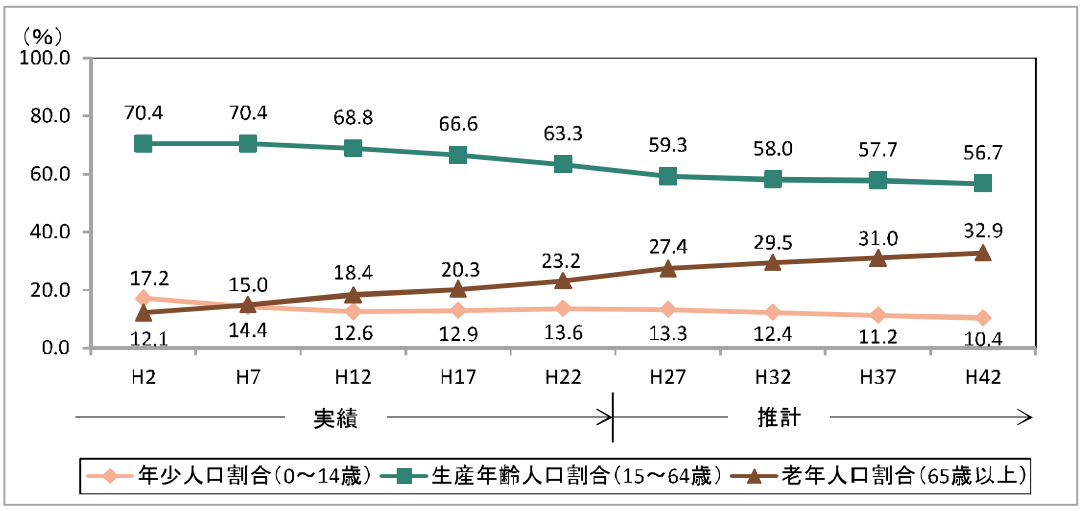
③年齢３区分別の将来推計人口

将来推計人口の年齢構成を見ると，年少人口（０～14 歳）は，平成 22 年（2015 年）以降から減少傾向に転じ，生産年齢人口（15～64 歳）も，平成 17 年（2005 年）から引き続き減少傾向となる一方で，老年人口（65 歳～）は，増加傾向で推移します。

年齢３区分別将来推計人口（人数）



年齢３区分別将来推計人口（割合）



（資料）芦屋市「芦屋市将来人口推計報告書」（平成 27 年３月）

このように，全国的な傾向と同様に本市でもいわゆる超高齢社会を迎えており，人口減少も徐々に始まる見通しとなっています。本市においても人口減少対策や少子高齢化対策をより一層進めていくことが必要となっています。

（４）芦屋市の財政状況

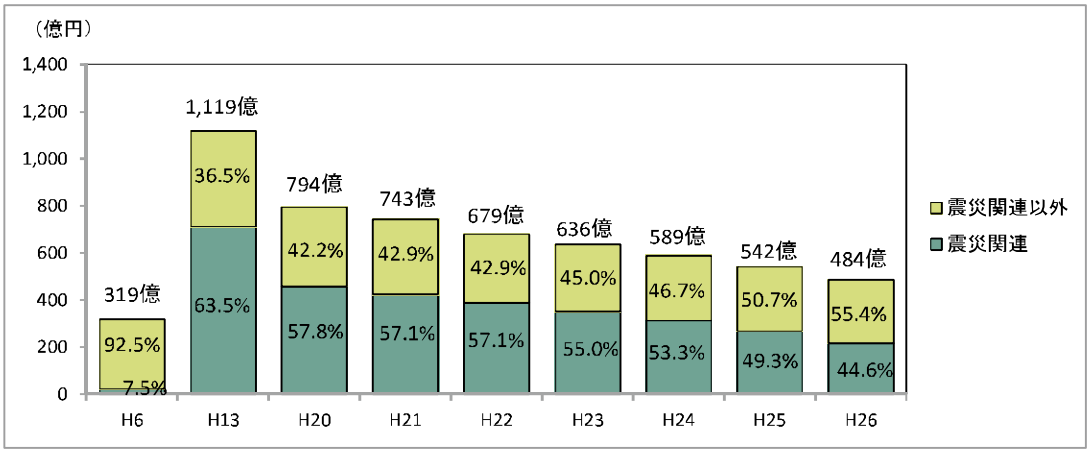
本市の財政状況は，震災前までは健全に推移していましたが，阪神・淡路大震災以後は，震災復旧・復興事業に多額の経費を要し，そのために借り入れた市債の償還(公債費)負担が大きくなったことから急速に悪化し，震災前(平成６年度)には 319 億円であった一般会計*市債残高は，ピーク時(平成 13 年度)には 1,119 億円にも上りました。

第４次芦屋市総合計画のスタート時（平成 22 年度末）においても，*市債残高は 679 億円と依然として高く，行政改革，事務事業の見直し，積極的な償還等に努めた結果，平成 26 年度末（2014 年度末）には，500 億円を切り，ようやくピーク時の半分以下の水準まで減少させることができました。

しかしながら，未だ全国的な水準から見ても厳しい財政状況にあることは変わりなく，景気回復による市税収入の大幅な増加も見込めない状況です。

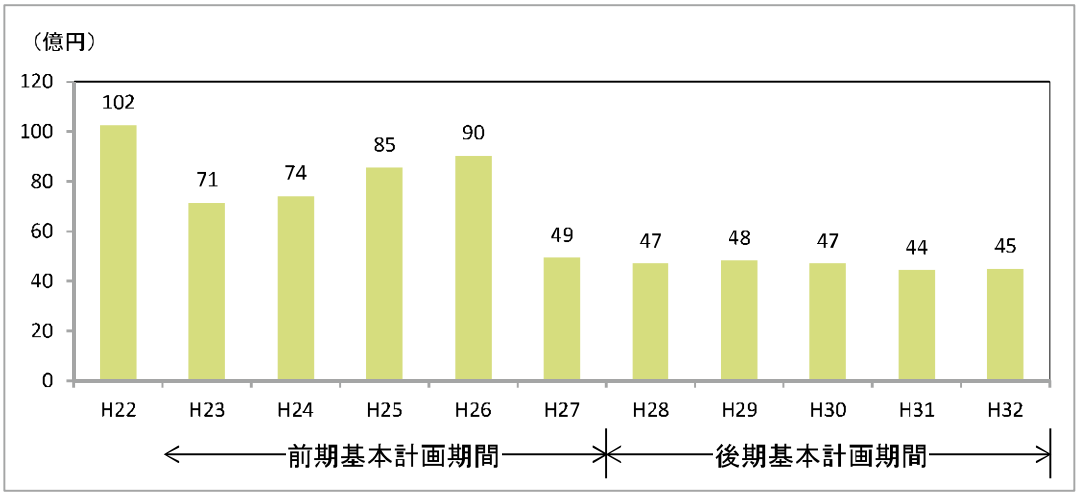
さらには，ますます高齢化が進む中で，介護，医療をはじめとした社会保障経費の増加，市の保有する公共施設の老朽化などのほか，懸案となっている諸課題への対応にも多額の財源が必要となることが見込まれることから，引き続き慎重な財政運営を行っていく必要があります。

*市債残高の推移



（資料）芦屋市「決算の概要」

公債費の推移



（資料）芦屋市「長期財政収支見込み（平成 25 年度から平成 36 年度まで）」（平成 27 年２月）